

川越大正浪漫夢通りを対象とした大正時代を演出する建築物群の研究

東洋大学 学生会員 ○齋藤 弘一
東洋大学 正会員 神山 藍

1. 背景と目的

明治維新と共に流入した西洋の文化は多大な影響を日本へ及ぼした。これまでに無い西洋の文化や知識が、建築や服飾、文学など多くの研究分野を昇華させた。時代が明治から大正に移り、西洋の文化は和の文化と融和し、次第に大衆化したと言える。

特に、西洋の文化は建築の分野において影響を与えた。明治時代にもたらされた西洋建築の技術は日本の建築のあり方を変化させた。大正時代には、従来用いられていた技術や様式だけでなく、西洋で使用されていた技術や様式を柔軟に取り入れた建物が出現し始め、街並みを形成した。この様な大正時代の建物が形成する街並みはまちづくりとしても魅力的であり、近年では、まちづくりの一環として建物や景観の保存が行われている。しかし、大正時代は15年間で短く、建設された建物の数も限られている。そのため、近年のまちづくりで形成される街並みは必ずしも大正時代に建造された建物のみで構成されている訳ではない。そこで、本研究では大正時代のまちはどのような要素の集合であるかについての研究を進めていく。

具体的には、大正時代らしさの解明のため、特に和風と洋風という2点に着目し、建築の要素がどのように街並みを形成しているのかについて明らかにする。

2. 研究の方法

2.1. 対象地の選定と背景

調査対象地は、大正時代の街並みを保存、再現している埼玉県川越市の仲町と蓮雀町にまたがる大正浪漫夢通り¹⁾(以下夢通り)とする(図-1)。実際に大正時代に建てられた建物は数軒であるが、1990年頃から大正時代を感じさせる商店街として街並みが整備されている。

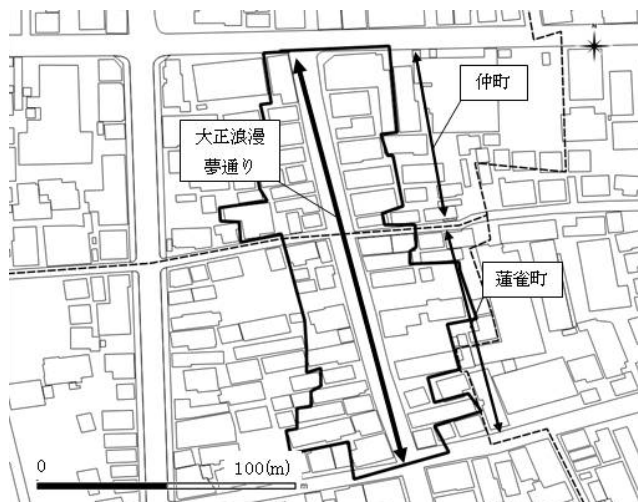


図-1: 調査対象地 (黒枠内)



図-2: 概形図と評価対象



図-3: 和風, 洋風の区分別

2.2. 調査方法

まず、現地調査を行い、建物前面部の写真を撮影する。この写真をもとに各建物の概形図(図-2)を作成し、屋根、開口部、店名看板、底、格子、壁面装飾を評価対象とする(図-2)。屋根、開口部、壁面は建物の基本構造である「骨格」として扱い、店名看板、底、格子

キーワード 大正浪漫、景観考察、川越、街並み景観、和風洋風

連絡先 〒350-8585 埼玉県川越市鯨井 2100 TEL.090-8174-9626 E-mail : s16e01301171@toyo.jp

を基本構造に属する「装飾」として扱う。さらに、6種の評価対象の造形と素材を調査し、和風、洋風に区分する。和洋の分類は明治以前に日本で用いられていた形状、素材を和風、明治期に西洋から渡来した形状、素材を洋風とする。ただし、昭和以降に用いられた形式や素材は和洋への分類では考えないものとする。

次に、図-3の様に、和洋への区分を概形図の各部位へ反映し、表面積の計算を行い、夢通り全体での和洋の面積の比較を行う。

最後に、骨格、装飾のそれぞれの項目においてどのような和洋の組み合わせがあるのかについて考察する。

3. 結果と考察

6つの評価項目である、屋根、壁面、開口部、店名看板、庇、格子にて用いられている造形、素材の情報を収集し、和洋へ分類した。各項目の和洋への分類結果を表-1に示す。ただし、昭和以降に用いられた造形、素材、及び日本と西洋のどちらでも用いられていたと思われる造形、素材は和洋への分類では考えないものとした。

3.1. 建物前面部の和洋の面積割合

表-1の区分表をもとに、各項目の和洋区分を概形図に反映したものを表-2に示す。図-4は概形図から算出した和洋の面積割合を示す。夢通り全体での建物前面部の合計面積を100%とし、そのうち和風と洋風に区分された面積の占める割合を示した。和風、洋風の項目の面積が占める割合は共に36%程度となり、ほぼ同じ値を示した。これより、夢通りにおける大正時代らしさは和風と洋風の要素が同程度の割合で含まれていると言える。

3.2. 建物前面部の和洋の組み合わせ結果

以下では、表-1の区分表をもとに、「骨格」における和洋の組み合わせと「装飾」における和洋の組み合わせ(表-2)を示す。加えて、表-2における骨格分類、装飾分類の出現軒数、出現率を表-3、表-4に示す。

表-2の骨格分類、装飾分類はそれぞれの和洋の組み合わせにより分類した。

表-3、表-4の出現軒数は、表-2の同じ骨格分類、装飾分類における建物の軒数を示し、出現率は夢通り全体に対する各分類の軒数を示した。

表-2の骨格分類において、骨格分類1が和風の組

み合わせ、骨格分類2が洋風の組み合わせ、骨格分類3～10が和洋折衷の組み合わせである。表-3において、最も多く出現した骨格分類の組み合わせは分類4であり、出現数は9軒で全体の27%を占めた。骨格分類4は洋風の屋根、壁面と和洋の開口部から

表-1:各部位の和洋区分表

項目		区分	造形	素材
骨格	屋根	和風	切妻屋根(平向き)	瓦
		洋風	陸屋根, 切妻屋根(妻向き)	コンクリート, レンガ
	壁面	和風	真壁造り, 大壁造り, 縦板張り, 横板張り ²⁾	木材, 黒漆喰, 漆喰
		洋風	ネオルネッサンス様式, ドリス様式, 下見板張り, 組積造り, 尖頭アーチ, デンティル, コーニスなど ^{3),4)}	コンクリート, モルタル, レンガ
	開口部	和風	横長開口部	
		洋風	縦長開口部, 正方形開口部	
装飾	店名看板	和風	木彫り看板, 暖簾 ⁵⁾	木材, 布
		洋風	チャンネル文字看板 ⁵⁾	金属
	庇	和風	腕木庇 ⁶⁾	瓦
		洋風	コーニス風霜除け, 陸庇 ⁶⁾	コンクリート, モルタル
	格子	和風	平格子, 縦繁格子, 太縦格子, 外付け縦格子など ⁷⁾	木材
		洋風	バラスト ⁷⁾ , 鋳物格子, 斜め格子など ⁷⁾	金属, セメント

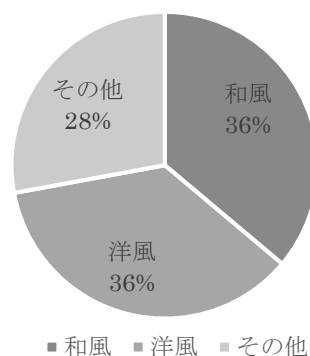


図-4:和洋の面積割合

表-2: 骨格と装飾における和洋の分類

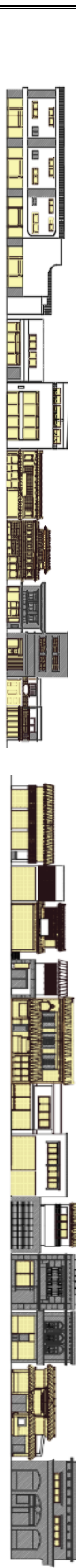
番号	建物名	骨格項目			骨格 分類	装飾項目			装飾 分類	夢通り西側	夢通り東側
		屋根	壁面	開口部		店名看板	庇	格子			
1	商工会議所	洋	洋	洋	2	-	洋	-	2		
2	山久	洋	洋	和洋	4	洋	洋	洋	2		
3	加賀屋	洋	洋	和	7	洋	-	-	2		
4	スガ人形店	洋	-	和	9	洋	-	-	2		
5	はんこや利剣堂	和	和	和	1	和	和	和	1		
6	テイク松定	洋	洋	和洋	4	洋	和	-	4		
7	真南風	洋	-	和洋	8	-	-	-	9		
8	わたなべ	-	-	和	1	-	-	-	9		
9	伊勢源	和	和	和	1	和	-	和	1		
10	うなぎ小川菊	和	和	和	1	和	和	和	7		
11	伊勢亀	洋	洋	和洋	4	洋	洋	-	2		
12	カニヤ	洋	洋	和	7	洋	洋	洋	2		
13	リルシェ	洋	-	和洋	8	-	洋	和	8		
14	田久	洋	洋	和	6	洋	和	和	3		
15	民家 1	洋	洋	和洋	4	-	洋	洋	2		
16	あさひ堂	洋	洋	和	6	洋	-	-	2		
17	保育園	洋	洋	洋	2	-	洋	-	2		
18	川越タルト	洋	洋	洋	2	洋	洋	-	2		
19	ヨシダデンキ	和洋	和洋	和洋	3	和	-	和	1		
20	大宝建設	洋	-	和洋	8	-	和	和	1		
21	大正浪漫通り接骨院	洋	-	和洋	8	洋	-	-	2		
22	倉庫	和	和	和	1	-	和	-	1		
23	浪漫石焼	洋	-	和	9	洋	-	和	6		
24	空想工房	和	和	和	1	-	-	和	1		
25	さをり	和	-	和洋	4	和	-	和	1		
26	ウッドベーカーズ	和	和	和洋	5	和	-	-	1		
27	MiZU-AME	和	-	和	1	-	-	-	9		
28	小島家住宅(元吉田屋)	洋	-	和	9	-	洋	-	2		
29	民家 2	和	-	和	1	-	-	-	9		
30	いせや	洋	洋	和洋	4	洋	洋	-	2		
31	大正館	洋	洋	和洋	4	洋	洋	-	2		
32	謙受堂	和	和	和洋	5	和	和	和	1		
33	大野屋	洋	洋	和洋	4	洋	洋	和	5		

表-3: 骨格分類の出現数と出現率

骨格分類	出現数(軒)	出現率(%)
1	8	24.2
2	3	9.1
3	1	3.0
4	9	27.3
5	1	3.0
6	2	6.1
7	2	6.1
8	4	12.1
9	3	9.1
合計	33	100

表-4: 装飾分類の出現数と出現率

装飾分類	出現数(軒)	出現率(%)
1	9	27.3
2	14	42.4
3	1	3.0
4	1	3.0
5	1	3.0
6	1	3.0
7	1	3.0
8	1	3.0
9	4	12.1
合計	33	100.0

成る組み合わせである。次いで、分類1が、出現数8軒、出現率24%となった。骨格分類1は和風のみの組み合わせである。骨格分類1, 4で通り全体の約5割を占めた。このことより、建物の骨格において和風の建築と洋風に重点を置いた建物から成る街並みが、大正時代らしさのイメージを与えていると言える。

表-2の装飾分類において、装飾分類1が和風の組み合わせ、装飾分類2が洋風の組み合わせ、装飾分類3～9が和洋折衷の組み合わせである。表-4において、最も多く出現した組み合わせは分類2で出現数は14軒で全体の42%を占めた。装飾分類1は和風のみの装飾が施されている。次いで、分類1が出現数9軒、出現率27%となった。装飾分類2は洋風のみの装飾が施されている。分類1, 2で通り全体の約7割を占めた。このことより、建物の装飾は和風と洋風の混在が少なく、どちらかに統一することで大正時代らしさのイメージを与えられるといえる。

4. 結論

本研究では、建物前面部の屋根、開口部、壁面、店名看板、庇、格子の6項目の造形、素材を和洋へ区分し、概要図を作成することで、和洋の表面積割合と、組み合わせの分類、夢通りにおける分類の出現数と割合を明らかにした。建物前面部における和洋の表面積割合は、和風と洋風がほぼ同程度の割合で出現した。建物前面部の骨格項目における和洋の組み合わせは、様々な組み合わせがある。その中でも、最も多い組み合わせが骨材では和風の建物と和風開口部を備える洋風の建物の組み合わせである事が示された。装飾項目は、和洋のどちらかに統一されている組

み合わせが多く和風と洋風の装飾をそれぞれ分けて使用されていることが示された。

参考文献

- 1) 連鎖的まちづくりによる中心市街地の再生に関する研究, 勝又照衣 曾根陽子 勝又英明, 日本建築学会技術報告集第12号(2001), pp. 173-176.
- 2) 真壁と大壁の違い, 住宅サポート建築研究所
<http://www.house-support.net/toi/wasitukabe.htm>
(2016年12月8日閲覧)
- 3) 設計室本日開店中, 照井春郎
<http://shunrouterui.jugem.jp/?page=3&cid=4>
(2016年12月8日閲覧)
- 4) カワゴエール 川越商工会議所,
<http://www.kawagoe-yell.com/sightseeing/shokoukaigisho/>
(2016年12月8日閲覧)
- 5) 興和サイン株式会社ホームページ
https://www.couwesign.jp/useful_contents/the_kind_of_signboard/
(2016年12月8日閲覧)
- 6) 庇の重要性和役割, 屋根修理のイーサーネット
<http://e-yanet.jp/material09281040>
(2016年12月8日閲覧)
- 7) 建築用語集ホームページ, (株)匠総合事務所
<http://www.kenchikuyogo.com/513-fu/009-fukiyose.htm>
(2016年12月8日閲覧)